

2020 年度立命館大学学園祭中止のお知らせ 別紙

2020 年度立命館大学学園祭実行委員会

● 2020 年度立命館大学学園祭 中止について

昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、例年のような大学構内での学園祭の開催は、参加者の安全と健康を十分に確保できないと判断し、中止を決定致しました。

また、学園祭のオンライン化についても検討致しましたが、実施しないと決定致しました。そのように判断した背景については以下の通りです。

● オンライン化した学園祭を実施しないと判断した背景

まず、2020 年度の学園祭を開催するに当たり、立命館大学学友会(以下、学友会)は『2020 年度立命館大学学友会学園祭運動方針』(以下、方針)を策定致しました。方針では、学園祭の意義を学生の成長と学園振興、また地域貢献としています。それらの意義を達成するために、学生文化の発信や非日常の創造、参加者が親しみやすい環境づくり、地域との調和といった方向性を定めました。

そして、学園祭実行委員会(以下、本会)は上記の意義及び方向性を体現する専門機関として発足し、参加者の安全と健康を確保しながら学園祭を開催する方法を模索して参りました。しかしながら、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、例年のような大学構内での開催は困難であると判断し、学園祭のオンライン化を検討致しました。

オンライン化した場合、方向性の 1 つである学生文化の発信の場を創出することは可能であります。しかし、現時点で発信をする側である団体の多くが活動を停止しており、例年通りの十分な学生文化の発信を行う事が困難です。加えて、地域貢献や非日常の創造、参加者が親しみやすい環境づくりといった部分については、オンラインでは非常に担保しにくい事項であります。また、このような部分を担保できないことは、学園祭の独自性を欠くことに繋がると認識しております。以上を踏まえると、学園祭をオンライン化した場合に、学園祭の意義やその方向性は達成し得ないものであると判断致しました。

また、以下にオンライン化した学園祭を実施しないと判断した背景を提示致します。

① 学生文化の発信について

例年の学園祭で、普段の活動を発信している団体の多くが活動を再開できておらず、日々の活動を行えていない状況です。そのため 2020 年度は発信する学生文化そのものが十分に醸成されているとは言い難いと考えられます。学生文化発信の場としても位置づけられている学園祭ですが、発信する学生文化が醸成されていなければ意義を達成できず、十分に機能する事ができないと考えます。

② 参加団体の活動について

仮にオンライン化して学園祭を実施すると決定した場合であっても、大学構内での活動は大学により再開が認められた団体しかできません。そのため、再開が認められていない団体が大学以外の場所で活動を再開することを促しかねず、ひいては新型コロナウイルス感染症の感染リスク上昇につながる可能性があります。

③ 学生文化の発信とその受け手について

学園祭とは、学生文化を発信する側に加えて、幅広い層の受け手がいることで意義が達成されると考えます。しかしオンライン化した場合は、発信する側しか顕在化され難く、発信の受け手について不可視的であり、発信した学生がフィードバックを得ることが困難であるため、学園祭の大きな意義を達成できないと考えます。

④ 財政について

学園祭は主に全学友会員から徴収した会費(以下、学友会費)をもとに開催しています。そのため、学友会費三原則(正当性・還元性・透明性)及び『2020 年度立命館大学学友会学園祭財政方針』に則った運営がなされなければなりません。その観点から、開催できるのかを思案致しましても、困難であるという結論に至りました。

⑤ 参加者について

方針で定めた方向性に則り、学友会が目指す学園祭は、学生はもちろん地域住民や遠方の方など、誰もが参加しやすいものです。しかしオンライン化した場合、機器やインターネット環境が整っていない方への発信は、十分には行なえません。つまり、参加できる人に制限がかかり、先に示した方向性を体現し難いと判断致しました。

以上